

古墳の授業

ちょびりこわいけれどおもしろい授業を子どもたちに・・・

1 古墳とはなんですか？

そう、その通り、王や豪族(地方に住む力を持ったグループのリーダー)のお墓です。

土を積み上げて作ります。

形はいろいろありますが、

大きく分けると丸い**円墳**、四角い**方墳**、

そして、かぎ穴の形をした**前方後円墳**が有名です。

古墳は日本中にあります。



私たちが住んでいる近くにも、たいてい古墳はありますが、

日本の中でも、集中して古墳がある場所があります。

この地図の中に、古墳が何個あるか、さがして色をぬり数えてみましょう。

*ヒント：古墳の形をした場所もあります。

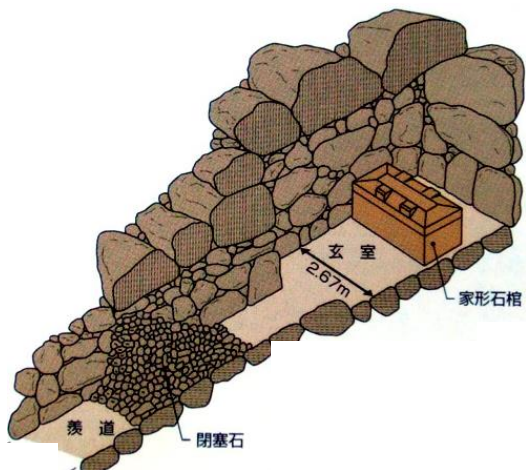
○○古墳群というのも古墳です。

10個以上見つかったら成功です。

みつからない人は、友達と教えあって探しましょう。

さて、地図は何県の物でしょうか？

2 古墳の中は、どうなっているのでしょうか？

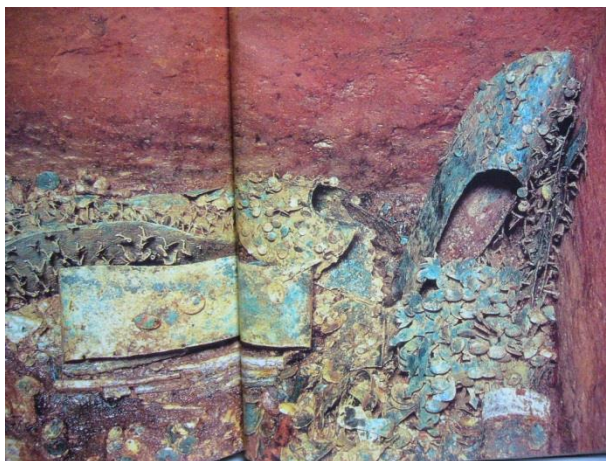


実際の古墳の中の様子を写真で見ましょう。

左は石室の中、右は石棺の中の宝物です。両方とも、赤い土で色づけされています。



宝物のいろいろ

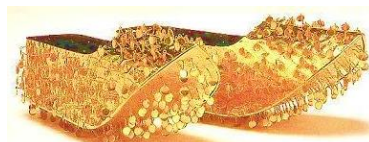


王冠

復元したくつ、

イヤリング

銅鏡



武器のいろいろ

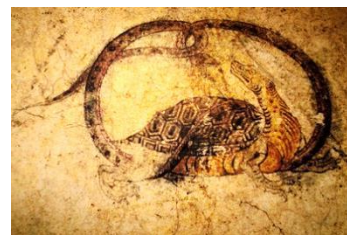
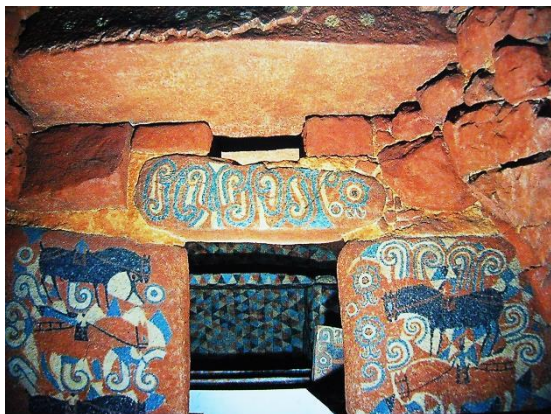
鉄剣



かぶと



古墳の中の壁画のいろいろ



四神の壁画 左は青竜、右は玄武。想像上の神様です。

鮮やかな壁画 馬が書かれています。

3 さて、日本では、こうした古墳が作られています。他の国のお墓はどういうようすでしょうか。

たとえば中国の一番古いお墓と比べてみましょう。

古墳との同じところ、ちがうところをそれぞれあげてみましょう。

ちがうところ	同じところ

4 日本でも、中国でも、古代(今から 1000 年～2000 年くらい前)には、大変立派なお墓を作りました。なぜ、こうしたお墓を作ったのでしょうか？

今と、死後の世界についての考え方が違います。

どんな考え方が、少し、想像できるのでしょうか？

今と全くちがうので、想像することは、大変むずかしいです。

当時の人々の考えを知ることのできる文章を読んでみましょう。

5 古墳を発掘すると、いっしょに出てくるものにはにわがありますね。

さて、はにわには、どんなはにわがあるのでしょうか。

その種類をあげてみましょう。

はにわには、こういうものがあります。人物はにわの身分あるいは職業を考えて、あててみましょう。



6 さて、はにわは、なぜ作られるようになったのでしょうか？

みなさんの考えはどうですか？

想像してみましょう。

はにわが作られるようになった理由を、言い伝えとして書いた本があります。

日本書紀という本の中に載っていました。それを読んでみましょう。

実は、日本の古墳と中国の一番古いお墓を比べた時、

もっともちがうというところ、王様といっしょに死ぬ人々(=殉死じゅんしと言います)が、邪馬台国の卑弥呼の時代にも、ありました。

魏志倭人伝という中国の本の中に、卑弥呼が死んだときには 100 人の奴隷がいっしょに殉死したとのっています。こうしてわかるように、この時代には、王のためには、どれいいは命をささげる必要もあったほど、平等ではない社会でした。それが、今の時代との大きな違いです。

また、中国では、いけにえや殉死で何千人もの人々が殺されたこともありますが、のちの時代には、人物の人形を作って、お墓に納めたこともありました。そのもっとも有名な人形が兵馬俑です。

殉死の風習は中国から朝鮮半島の国へ伝わり、日本書紀にも出てきたように、そうして、日本にも伝わったものなのです。

また、馬を埋める風習も、最初から中国では行われていました。それが、日本のはにわになり、古墳からは馬具(くらやかざり)もたくさん見つかっています。馬は当時の人々にとって大変な宝物でした。



7 古墳に話をもどします。

古墳を造るのに必要な道具は何でしょうか？

古墳を造る時に、必要な人々(仕事別に何をする人々?)は、

どういう人々でしょうか？みんなで考えてみましょう。

必要な道具	
必要な人々	

いろいろな道具、そして、いろいろな仕事をしてもらう人々が必要になったことがわかります。このような人々に働いてもらうために、一番大事なことは何でしょうか？

この人たちは、食料をどうしていたのでしょうか？

こうした人々に働いてもらうためには、十分な食料が必要です。

弥生時代には、古墳はあまり造られませんでした。

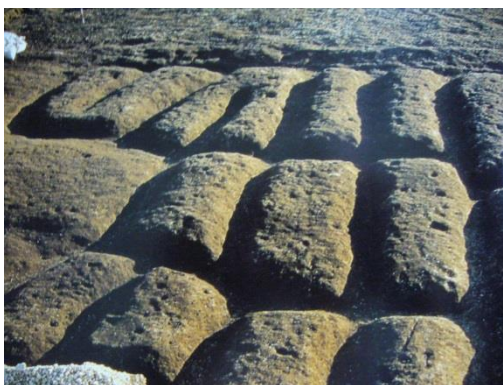
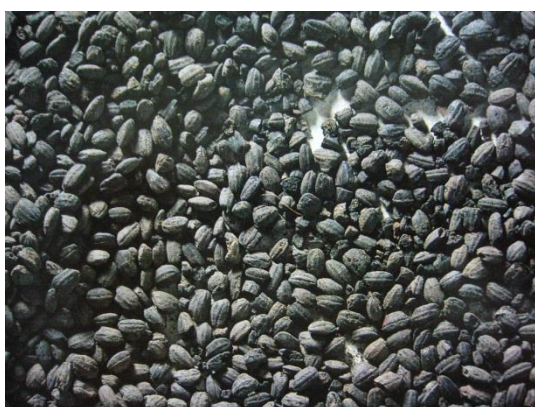
古墳時代にたくさんの古墳が造られるようになったのは、

農業で、たくさんの米や雑穀が作られるようになり、余裕が出てきたからです。

この時代には、身分上の差別が出てきたと同時に、農業での作物によゆうが生まれ、

優れた技術が発達しました。

この写真は 何でしょうか？



8 きいごに・・・・・・・・

こうして今まで見てきたように、中国や朝鮮半島から、農業やお墓や道具の文化が伝わってきました。文化が伝わるとは、どういうことか考えてみましょう。

例えば、教科書に「稲作が伝わる」と書いてありますが、稲作を知らない人々が、できるようになるには、どうすれば作れますか？二種類考えてみましょう。

必要なものは？ (ハード)	
必要な技術は？ (ソフト)	

9 弥生時代から古墳時代～奈良時代と

中国や朝鮮半島から、たくさんの技術や文化が日本列島に伝わりました。稲作が伝わった時に、稲の種が、ドンブラコドンブラコと、海をわたって流れ着いたわけではありません。

必ず、持ってきた人々がいるはずです。

それも、誰かが船でたった一人来たわけではないはず、

何人かのグループ、つまり、家族で・・・あるいは親せき一族で・・・

種だけではなく、クワやカマの道具も持ってきたかもしれませんし、

いつ種をまいたらいいのか、水田はどうやって作ればいいのか、それがわかる人がいないと栽培なできません。

また、古墳づくりなら、古墳の設計も建築技術も、はにわを作る技術も青銅器を作る技術も必要です。

この時代、中国以外に本は、まだありませんでしたので、その技術を知ってできる人がいないと作れません。

ですから、この時代には、遠く離れた中国から、あるいは日本海をわたって、思ったよりもたくさんの人々が、荒波をこえて何万人もやって来たのではないかと・・・私は思っています。みなさんはどう思いますか？

古墳の授業

ねらい 5個のうち最短なら、①、③、④

- ①(中国・朝鮮由来の)優れた技術と文化が古墳時代にはある。
- ②今とちがう考え方だった。・・・来世への関心(あの世は地下に。来世の生活)
- ③平等ではない社会だった。・・・身分差・階級・権力
- ④豊かさの象徴＝農業の裏付けがあっからこそ古墳が造れた。
- ⑤古代東アジア文化圏の影響と交流 ⇒日中・日韓はひとつである。

授業の構成・・・4時間程度 最短でやるなら、1、2、5、6、7

1 古墳とは・・・？

- ・王や豪族の墓
- ・日本中にあるんだよ
- ・探してみよう

2 古墳の中はどうなっている？

- ・石室の中はどうなってるだろう(壁画、宝物)

3 中国の王様のお墓と比べてみよう

- ・違っているところ、同じところ(殷の王墓) ← (たくさん意見を聞く)

4 どうしてお墓をりっぱにしたのだろう？

- ・あの世についての考え方が今とちがう。・・・古事記から

5 はにわには、どんなものがあるだろうか？

- ・はにわのいろいろを見てみよう。種類、身分 ← (たくさん意見を聞く)

6 どうしてはにわが始まったのだろう？

- ・殉死をやめて土器を作る…日本書紀から＝平等ではない社会 ← ちょっと想像してもらう

7 古墳を作るのに必要な物は何だろう？

- ・必要な道具、必要な人 ← (たくさん意見を聞く)
- ・働いてもらうために必要な物は何だろうか…豊かさと農業

8 古墳の文化はつながっている＝東アジア圏

- ・お話・・・農業が伝わる＝中国から朝鮮、日本へ
- お墓や道具の文化も伝わる＝中国から朝鮮、日本へ

「日本書紀」に書かれている言い伝え

(殉死とはにわの始まり)

十一月二日 倭彦命が亡くなったので「つき坂」というところに葬った。この時、家来たちを集めて、全員生きたままで、墓のまわりに埋め立てた。日がたつても死なずに、昼も夜も泣きうめいた。ついには、死んで腐っていき、犬や鳥が集まり食べた。

天皇は、この泣きうめく声を聞かれて、心を痛めた。

まわりの貴族たちに対して

「生きている時に愛し使った人々を、死者に殉死させるのは痛々しいことだ。古くからの習慣だからと言っても、よくないことは従わなくても良い。皆で相談して、殉死をやめるように」といった。

次の年、王様の妻≡皇后が亡くなられた。「今度の葬式はどうしようか」と相談した。

「のみのすくね」という人は出雲(島根県)の、土器をつくる専門家百人を呼んで土で人や馬やいろいろな物の形を作って天皇にささげた。

「これからは、この土の人形を使って、生きた人に代え、墓に立てるようにしましょう」と、こののみのすくねという人が言うと天皇は、大変ほめて、この人を代々お墓建設の専門家に指名した。

これ以来、埴輪を墓の周りに置くようにしたのである

大化のころの話(言い伝え)

天皇がおっしゃった。

「中国の皇帝が中国の人々にこう言ったと聞いている。

『昔はお墓は派手にせず質素に埋めた。金銀銅鉄を墓に入れる必要はないし、土で昔の馬車の形を作り、草で人形を作ればよい。

玉(ヒスイ)の飾りなどはいらぬ。亡くなった人を人々に見せるようなことはしなくていい。』(ヤマトでも) この頃人々が貧しいのは、むやみに立派な墓を造るためである。」

そうして、墓の大きさを、身分によって決めた。

いちばん上の位の人の墓の石室は長さ二七m、墓の大きさは9m、高さ8m、働く人数は千人、一週間で造れ。

・・・庶民の墓は土の中に埋めよ。その日のうちに埋める。

およそ人が死んだ時に、殉死したり、あるいは殉死を強制したり、死者の馬を殉死させたり、宝を埋めたり、死者の為に髪を切ったり、ももを刺して嘆いたりすることはすぐやめる。

金銀・錦・綾の布などを墓に納めることもしてはいけない。

もしこれに背いたら、必ずその一族を罰する。